

石のひつじ だより

新年のご挨拶



あけましておめでとう!
今年もよろしくね☆



あけまして おめでとう ございます

昨年度は、職員4名中3名の異動があり、なれぬ職種に戸惑う事多々有りましたが、今年は経験をふまえ、平尾台の良さを実感できるような各種イベントや展示を計画しています。冬景色もすてきな平尾台から皆さまの御来館を職員一同心からお待ちしております。

平尾台自然観察センター職員一同

ボランティア活動

ザイルワーク&ゴミ拾い

11月23日(祝)にボランティアの屋部博嗣さんの発案で実施しました。まず、研修室にて屋部さんが講師となりザイルワークの基本となる結び方や確保の仕方を研修。その後、吹上展望台に移動して、懸垂下降や確保等の訓練を実施しました。午後からは、展望台下に不法投棄されているゴミをザイルワークを駆使して拾い集めました。集めたゴミは13袋にもなり、カン・ビンやカップ、ヌードル、コンビニ袋が多く、その他バッテリー、トースター、長靴等の不法投棄もありました。どうすれば不法投棄が減るのでしょうか? 皆さんからのお智恵を募集しています。

○参加者10名(ボランティア9名:屋部夫妻、白川、斎藤、友枝、溝部、江上、蒲原、千代丸、スタッフ1名:藤井)



★ イベント報告 ★

～ 平尾の森で再発見(生き物しらべ) ～

11月28日(日)に「平尾の森で再発見(生き物しらべ)」のイベントを実施しました。最初に、神社の森で落ち葉めくりをして、分解される様子を観察したり、落ち葉の下にいる生き物しらべを行ないました。落ち葉めくりのときは、参加者の皆さん興味津々でとても楽しそう。その後、キノコ探しやキノコを食べる虫を観察。朽木の中には、各種甲虫類やカミキリムシの幼虫、ムカデ等が生息していて、子供たちがとても興味を持って虫を観察したり、触ったりしていました。また、松の木の年数の数え方については、参加者の皆さん初めての知識で、関心していました。今回のイベントは参加者にとても好評だった為、来年度のイベントでも実施したいと思います。

○参加者16名(一般9名、スタッフ2名、ボランティア5名)



落ち葉めくり



朽木で虫探し

★ 初冬の平尾台 ★

今年も暖冬で、紅葉がいまいちでしたが、それでもマユミ(ニシキギ科)の仲間には12月初旬にはキレイに色づいていました。ドリーネの縁や日当たりの良い崖などでより鮮明な紅葉が見られました。

気温が下がると葉緑素(緑の色素:クロロフィル)が分解され、黄色の色素(カロチノイド)が目立ち始めます。植物の活力がさらに弱まり、葉で作ったデンプンがたまと、デンプンがアントシアニン(赤い色素)に変わり、葉も赤くなります。



青く澄み切った空気の中で、枯れたススキに浮かんだ石灰岩や権現山の稜線が美しく、パトロール中に、ついシャッターを切ってしまいました。初冬にしか見られない風景ですが、見えない部分も含めて平尾台の全てを語っているような気がしました。これから雪が舞い、野焼きが行なわれ、草木が芽吹き、みどりに包まれてゆく草原で、命の営みが連綿と繰り返されていきます。

平尾台の自然を皆さんと共にずっと大切にしていきたいですね。

★ イベント情報 ★

● アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日: 1月21日(金)
(10:00～16:00)

対象: 10名(一般)
(材料費: 2000円程度)

申込締切: 1月12日(水)

申込方法: 往復ハガキ

● 冬の平尾台散歩

冬の平尾台を自然観察しながら歩こう。

開催日: 1月23日(日)
(9:30～15:00)

対象: 30名(一般)
申込締切: 1月12日(水)

申込方法: 往復ハガキ

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。

※複数で申し込まれる方は全員の氏名、年齢を明記してください。

※イベントの開催日、内容等が変更になる場合があります。ご了承ください。



石のひっじ だより

平尾台の野鳥

今年の干支にちなみ平尾台で観られる野鳥をシリーズで紹介しします。

エナガ (エナガ科)



(柄長: 留鳥: 全長 14 cm)

ユーラシア大陸の温帯から亜寒帯まで分布。日本では北海道～九州。丘陵から山地の雑木林、マツ林等で生活し、林内を移動しながらエサをとっています。秋冬はよくカラ類と群れる(混群)。

センターでも早朝に枝先に止まっている姿を時々見ます。

空を飛べていいなー。目元がかわいいね。



メジロ (メジロ科)



(目白: 留鳥: 全長 12 cm)

東アジアの温帯から亜熱帯に分布。ほぼ全国的に分布するが北日本には少ない。平地から山地の林、特に常緑広葉樹林を好む。カラ類と混群を作る。

ツバキの花蜜や果実等を好む。平尾台の森や民家の庭先などで見かけます。

ツグミ (ヒタキ科)

シベリヤ東部やカムチャッカで繁殖し、日本へは冬鳥として全国に飛来します。年によって飛来数に差があるようです。草原や農耕地でエサをついばんでいる姿を良く見かけます。

昨年は11月中旬から平尾台にやってきました。センターでは、芝生や枝に止まっている姿を毎日見かけます。



(鶇: 冬鳥: 全長 24 cm)

日本の野鳥 (山と溪谷社) 参照

地域行事 ～ 野焼き ～

◎日程: 2月27日(日) 10時～15時半

天候不良の場合は順延

◎野焼き見学会

(場所) 平尾台自然の郷 (093-452-2715)

(時間) 午前10時～、午後1時～

◎車両交通規制

(時間) 7時～16時

(区間) 県道28号吹上交差点から内ノ蔵尚、平尾台自然の郷の前を通る市道110号を迂回すると、東谷から行橋は通り抜けできます。

野鳥豆知識 混群 (こんぐん)

秋冬になると、カラ類を中心に異なる数種類の小鳥達が群れを作り行動する様子をよく見かけます。これを混群と呼びます。

シジュウカラ、ヤマガラなどのカラ類、エナガ、メジロ、コゲラ、キクイタダキなどが一緒に群れている事が多いようです。

混群を作る理由は、はっきりしないのですが危険察知や採餌効率の向上にあるようです。混群に出会うととても賑やかです。じっとして観察すると色んな小鳥達が近くで観察でき、とても楽しい時間を過ごせます。

☆ イベント報告 ☆ 天狗岩ハイキング

神社の森～茶ヶ床～中峠～周防台～桶ヶ辻～天狗岩～目白洞～茶ヶ床～神社の森と少し長めのコースでしたが、参加者の皆さん事故もなく好評でした。中峠の鬼の洗濯岩(条溝カレン)、周防台や天狗岩では貫入岩や花崗岩地質の観察をし、太古の平尾台の姿を皆さんと想像しました。また、桶ヶ辻ではパラグライダーの離陸を見学しました。何と言っても今回の目玉は、タカの仲間のホバリングと急降下でした。獲物を狙うタカの生態を目の当たりにし皆さん感動した様子でした。

周防台の貫入岩



ゴール目の天狗岩



平尾台の地形 ～ 屋根なし洞窟

千仏鍾乳洞に向かうカーブの左手にピナクルが林立する貝殻山があり、その南斜面には侵食された鍾乳石が露出している場所があります。

貝殻山の鍾乳石は、もとは洞窟内で形成されたものです。それが地表に現れているということは、地表の侵食によって洞窟が破壊されたと考えられます。このような地表で見られる洞窟の痕跡を、「屋根なし洞窟 roofless cave」と呼びます。

側には水中洞窟起源の小さな堅穴があり、鍾乳石と関係するものと思われます。屋根なし洞窟は、カルストの歴史を考える上で重要なものです。世界的にも最近注目されるようになってきました。

平尾台では、地表の鍾乳石については貝殻山のほかに、数箇所見つかっています。(カルスト学者: 浦田健作博士のお話)



屋根なし洞窟



小さな堅穴



フローストーン

貝殻山



落書きをしたらダメだよ!



パトロールだより

落書き!

右の写真は昨年11月に茶ヶ床トイレの壁に書かれた落書きです。今年になってから同じような絵柄の落書きを九電の無線中継所で見つけました。公園の景観を損なうばかりでなく、落書きを消す為の手間や費用を考えれば、このような行為は出来ないと思うのですが?



石のひっじ だより

平尾台の野鳥

ミヤマホオジロ (ホオジロ科)



朝鮮半島、中国東北部から西部にかけて繁殖、10月から4月に飛来、平地から山地の雑木林や明るい林のへりなどの地上をはね歩いて移動しながら餌をついばんでいます。オスの頭部は鮮やかな黄色の模様があり美しい。ドリーネの森や周辺の林道などで群れを見かけます。

(深山類白：冬鳥：全長16cm)



可愛い鳥がいっぱい。平尾台でも見られるんだね。

ウグイス (ウグイス科)



(鶯：留鳥：全長；オス13cm、メス17cm)

ウスリー、中国と日本全国の低地から山地まで広く分布、繁殖の条件は林の下生えにササが密生している所。早いところでは2月下旬頃よりたどたどしい囀りが始まります。春の平尾台ではあちこちで鶯の競演を楽しむことができます。

ヒレンジャク (レンジャク科)



アムール川の下流で繁殖、11月から5月に飛来、平地の集落や市街地で越冬。平尾台ではヤドリギが多く、時折ヒレンジャクの群れを見かけます。頭の形(冠羽)に特徴がありヒリヒリと鳴くので、割合と判別しやすい。

(緋連雀：冬鳥：全長17cm)

日本の野鳥(山と溪谷社)、新山野の野鳥(日本野鳥の会)参照

地域行事 ～ 鎮火祭 ～

平尾台山祇神社で野焼き前の2月11日に、集落の人々や関係者が集まり、恒例の鎮火祭が厳かにとりおこなわれました。神事は、修祓の儀 降神(火具土神、産土神)の儀 献饌の儀、祝詞奏上 宮司玉串奉奠、お神楽奏上 忌火点火 忌火鎮火 玉串奉奠 昇神の儀の順で進み、平尾台太鼓は忌火の点火と同時に奏楽が始まり鎮火までの間、奏でられていました。



修祓の儀



忌火



平尾台太鼓

ボランティア研修

冬の野鳥観察と藤戸洞探検

晴天の2月13日(日)にボランティアの皆さんと共に研修を行いました。午前中は、冬の野鳥観察を草原、森、農耕地、人家周辺で行ない、ミヤマホオジロなど11種類を確認。生息環境による種類の違いや、留鳥と冬鳥の違いなどを学びました。また午後からは、大穴にある藤戸洞でザイルワーク訓練を兼ねて、冬の鍾乳洞内部を探検しました。高さ3mの岩壁を登り洞口にたどり着くまでが大変ですが、冬眠中の多数のキクガシラコウモリが迎えてくれました。



平尾台の地形～レインピット

石灰岩は雨水に溶かされる性質がある為、岩の表面には雨水により浸食された跡が残ります。通常は雨水の流れに沿って溝状のカレンという形状になります。しかし、時には丸い穴状の浸食跡が形成される事があります。これをレインピット(雨食穴)と呼んでいます。どうしてこのような丸い形状になるのか詳しいメカニズムは分かっていませんが、平尾台のピナクルを見て廻ると意外と多く存在しています。

(カルスト学者：浦田健作博士のお話から)



レインピット



カレン



カレン

平尾台に咲くかわいい花

オニシバリ(ジンチョウゲ科)

花期：3月から4月



落葉小低木、夏季に落葉し、冬に葉をつける。はっきりしない雌雄異株で、赤い実は辛くて有毒。樹皮の繊維が丈夫なことから「オニシバリ」の名がついた。好石灰岩植物で、平尾台では、ドリーネの林内などで見られる。

コショウノキ(ジンチョウゲ科)

花期：2月から4月



常緑小低木で雌雄異株。赤い実はひどく辛いために「胡椒の木」という名前がついた。好石灰岩植物で、平尾台では、ドリーネの林内などで見られる。

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※複数で申し込まれる方は全員の氏名、年齢を明記してください。
※イベントの開催日、内容等が変更になる場合があります。ご了承ください。

★イベント情報★

●平尾台クリーン大作戦

みんなで平尾台をキレイにしよう!!

開催日：3月13日(日)
(10:00～13:00)

対象：一般、定員なし
申込締切：2月28日(月)
申込方法：往復ハガキ

●アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日：3月18日(金)
(10:00～16:00)

対象：10名(一般)
(材料費：2000円程度)
申込締切：3月9日(水)
申込方法：往復ハガキ

石のひっじ だより

平尾台の野鳥

キジ (キジ科)

(雌: 留鳥:

全長オス 81 cm
メス 58 cm)



ユーラシア大陸の温帯に広く分布。オスは赤い顔と緑の胸が目立ち、長めの尾をした日本の国鳥。繁殖期には、オスの縄張りに複数のメスが棲みつくことが多く、オスは、「ケン、ケン」と鋭く鳴き立てます。平尾台では、集落の畑や草原で見ることができます。

キジは、キレイだね。平尾台でよく見かけるよ。ヒバリとセツカもかわいいね。



ヒバリ (ヒバリ科)

(雲雀: 留鳥:

全長 17 cm)



主にユーラシア大陸の温帯から亜寒帯で広く繁殖。日本では北海道から九州で繁殖。繁殖期にはつがい縄張りを持ち、オスは草原の上空で停空飛行し、さえざります。平尾台では2月16日にさえざり始めました。

セツカ (ウグイス科)



ユーラシアとアフリカ大陸の熱帯から温帯で広く分布、日本は本州以南に分布。平尾台には、4月頃やってきて繁殖します。上昇する時「ヒッヒッヒッ」とさえざり飛行し、下降する時に「チャチャチャ」と鳴く。草原の鳥。

(雪加: 夏鳥: 全長 12 cm)

日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照

地域行事 ～ 野焼き ～

2月27(日)に予定されていた野焼きが延期になり、3月2日(水)に実施されました。今年は、野焼き実行委員会が募集した約50名の方々が、茶ヶ床園地で野焼きを見学されました。当日の天候は、曇り後晴で枯草のネザサやススキが勢いよく燃えていました。午後からは、平尾台自然の郷や平尾台自然観察センターの周りも焼き、平尾台は、すっかり黒くなりました。これから春本番です。



平尾台の地形 ～ 光カルスト (光鍾乳石)

今月は余り聞きなれない光カルストのお話です。「光カルスト」は光合成生物(シアノバクテリア、藻類など)の活動によって形成されるもので形態は大きく2種類に分けられます。

①石灰岩が侵食されて溶け残り釘状に突き出したものを、「光カルレン photokarren」②沈澱により光の方向に突き出して成長した鍾乳石を、「光鍾乳石 photospeleothem」

なお、「光カルスト」は正しくは「光指向性カルスト light oriented karst」と呼んだ方がいいでしょう。

今回は②の光鍾乳石について紹介します。光合成生物により光合成が活発に行われると空気中および岩石表面の水分中の二酸化炭素が消費されて、水に溶けていた炭酸カルシウムが沈澱し、鍾乳石が形成されます。この鍾乳石が光の射す方向に向かって発達するものが光鍾乳石です。洞窟の入り口付近の光が入射する場所で見られる事が出来ません。

平尾台では、青龍窟や藤戸洞で観察できます。

(カルスト学者: 浦田健作博士のお話から)

光鍾乳石いろいろ: 光の方向に発達



あざいし 畦石 (リムストーン)



せきじゆん 石筍



ふさじょう 房状鍾乳石 (ケブユーラ)



パラボナアンテナ型鍾乳石

平尾台に咲くかわいい花

アオイスミシ (スミシ科)

花期: 3月から4月



全体にあらい毛の多いスミシ。平尾台では、低山や丘陵地に生える。果期の葉は、いちじるしく大きくなる。花柄は長さが4センチ～7センチ。花は紫色で、根生している。



ツクシヨウジョウバカマ (クワ科)

花期: 4月から5月

平尾台では、山地の林内や林縁に生える。花が、白色または、淡紅色で花被片は、やや短い。草丈は、10センチ～40センチの多年草。

★ イベント情報 ★

● ボランティアガイド入門

(第1回)

平尾台ボランティアガイド入門講座(平尾台の概要、ドリーネ探検)

開催日: 4月10日(日)
(9:30～15:00)

対象: 一般20名(高校生以上)
申込締切: 3月25日(金)
申込方法: 往復ハガキ

● アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日: 4月22日(金)
(10:00～16:00)

対象: 10名(一般)
(材料費: 2000円程度)

申込締切: 4月15日(金)
申込方法: 往復ハガキ

● 大平山草花ハイキング

大平山の春の野草を観察しながらハイキング。

開催日: 4月29日(金)
(9:30～15:00)

対象: 30名(一般)
申込締切: 4月15日(金)
申込方法: 往復ハガキ

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。

※複数で申し込まれる方は全員の氏名、年齢を明記してください。

※イベントの開催日、内容等が変更になる場合があります。ご了承ください。

3月13日のクリーン大作戦は降雪の為、中止になりました。

石のひっじ だより

平尾台の野鳥

ホオジロ（ホオジロ科）

ユーラシア大陸の中央部から東部の温帯域に分布。北海道から屋久島まで分布。平地から山地の明るい林縁や、ススキ草原、川原などに生息。平尾台では年中見られ、今年は3月上旬よりさえざり始めました。



（類白：留鳥：全長17cm）

「チョッピーチチロ、ピピロピー」聞きなしは「一筆啓上、仕り候」というらしいが？ 平尾台では多数繁殖。

いろんな鳥が平尾台にはいるんだね。



カワラヒワ（アトリ科）

アジア北東部で繁殖。北海道から九州まで普通に分布。平地から低山地の色々な林や農耕地、市街地にも普通に見られる。平尾台でも良く見かける鳥のひとつ。非繁殖期には、群れで行動するらしいが、平尾台では小さな群れである。飛ぶと翼の黄斑が良く目立つ。高い声でキリリと鳴く。



（河原磯：留鳥：全長15cm）

ホオアカ（ホオジロ科）

平尾台の草原を代表する鳥

中国東北部、ウスリーからヒマラヤに分布。北海道から九州まで分布。背丈の低い草原を好む。平尾台では春から秋までよく見られ繁殖しています。さえざりはホオジロに似ています。「チョッチチチロチッ」といっても聞き分けるの難しいですね！



（類赤：留鳥：全長16cm）

日本の野鳥（山と溪谷社）、新山野の野鳥（日本野鳥の会）参照

地域行事 ～ 等覚寺松会 ～

今年の松会は珍しく晴天に恵まれ、白山多賀神社境内は見物客で溢れていた。千年の歴史を誇る国指定重要無形民俗文化財（平成10年指定）である松会は、天下泰平と五穀豊穡を祈願する予祝神事で、幣切りは全国でも等覚寺にしか残っていない神事である。祭りは田行事（獅子舞、田打ち等）から山伏の舞（薙刀等）と

4月17日（日）
幣切り神事



続き、最後の幣切りは、松庭にそびえる高さ10mの松柱によじ登り、施主盛一鷹が太刀で御幣の竹串を切落とす。今年は一太刀で切り落とされ大豊作のようである。日本農村景観百選の等覚寺には、往時60数戸もあり、施主が一生涯に一度廻って来る程度だったが、現在は13戸しかなく、一生に数回も廻って来るそうで、松会行事が終わらないと、等覚寺では一年が始まらない。

平尾台のむし

平尾台では、初記録となるセアカオサムシを観察しました。体長約18mm。草原性のオサムシで、北海道～九州に分布。福岡県では局所的な分布で生息数は少ないようです。



セアカオサムシ 4月15日

☆ イベント報告 ☆ ボランティアガイド入門（第一回）

今回は、「いのちのたび博物館」特別研究員藤井厚志博士を特別講師としてお招きし、地質散策と地質講義「平尾台 カルスト台地の地形と生い立ち」をしていただきました。散策コースはセンター～千貫岩～大かん台～風神山～不動山～箱穴～見晴台～助佐穴（ドリーネ探検）～センター。また、ハイビジョンシアター「平尾台の不思議」の観賞及び平尾台の概要について話をしました。参加者からは「専門家の話を聞け平尾台の成り立ちについて少し理解ができ、興味が湧いた。」との感想を頂きました。ヒトリシズカ等の春の草花にも出会えて好評でした。



平尾台の地形 ～ 光カルスト（光カレン）

先月号で紹介した「光カルスト」の中の「光カレン photokarren」についてのお話です。光カレンの形成メカニズムについては、光合成生物（シアノバクテリア、藻類など）が生産する何かの酸によって石灰岩が溶食されているのではないかと考えています。光カレンが形成されている場所には鍾乳石の沈殿は見られないので、光合成による沈澱をうわまって溶食作用が進行しているものと考えられます。何のために光合成生物が石灰岩を溶かすかはわかりませんが、くぼみをつくって住処とするのではないのでしょうか。単に光が当たる場所を好むだけなら溶食は面的に進行するはずですから、カレンはできません。おそらく最初から石灰岩表面の凹部を好んで生育したのだろうと考えています。その意味では光合成生物による一般的な形態が光鍾乳石で、穿孔性の光合成生物による形態が光カレンになるのではないかと考えています。青龍窟西洞で観察できます。



光カレン

（カルスト学者：浦田健作博士のお話から）

パトロールだより

4月よりぼちぼちワラビ採りをお見かけします。

ですが、平尾台（特別保護地区）では自然公園法により、ワラビ採りは出来ません。もちろん他の山菜を含む山野草（植物）や動物（昆虫）なども同様に採集できません。ご理解ください！



☆ イベント情報 ☆

● ボランティアガイド入門（第2回）

平尾台ボランティアガイド入門講座（平尾台の植物）
開催日：5月8日（日）
（9:30～15:00）
対象：一般20名（高校生以上）
申込締切：4月27日（水）
申込方法：往復ハガキ

● アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。
開催日：5月20日（金）
（10:00～16:00）
対象：10名（一般）
（材料費：2000円程度）
申込締切：5月13日（金）
申込方法：往復ハガキ

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。

※複数で申し込まれる方は全員の氏名、年齢を明記してください。

※イベントの開催日、内容等が変更になる場合があります。ご了承ください。

ようせい 春の妖精たち



オキナヅサ



ヒトリシズカ

石のひつじ だより

平尾台の野鳥

カッコウ (カッコウ科)



(郭公：夏鳥：全長35cm)

ユーラシア大陸とアフリカで繁殖。北海道～九州。平尾台では毎年5月20日前後にさえずりを聞くことができます。ホオジロやホオアカ等約20種に托卵する。高原、明るい林、川原等に見られます。平尾台の初夏の草原には欠かせない存在です。

ホトギス (カッコウ科)



(不如帰：留鳥：全長28cm)

ウスリーから東南アジアで繁殖。北海道南部～九州。ウグイスやセンダイムシクイ等に托卵する。低地から山地の明るい林に見られます。平尾台では毎年カッコウと同じ時期に飛来し、「 Teppen Kake Taka」とさえずります。

日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照



ヒバリの巣

ヒラタアオコガネ? (コガネムシ科)

体長：9-12mm。緑色。小穴近くのコナラの葉を食べていました。



草原を散策をしていて偶然見つけました。すぐに親鳥が戻ってきたので一安心。親鳥が巣を放棄する場合がありますので巣を見つけてもそっとしておきましょう。



コアオハナムグリ (コガネムシ科)

体長：10-14mm。緑色や赤銅色。春と秋に多く夏は少ない。カノコソウの花に夢中です。



ニフハンミョウ (ハンミョウ科)

体長：15-18mm。色彩や斑紋の変異が大きい。大あごが発達しており、幼虫・成虫とも肉食性。



オカウツボ

花期：5月～7月
丘陵地の日当たりのよい草地に生える多年草。「オトコヨモギ」に寄生する。平尾台では、まれにしか見られない。



コキンバイザサ

花期：4月～7月
暖地の山地草原にはえる多年草。花被片は6個。黄色で、平開する。小さくて余り目立たない。



テリハノイバラ

花期：5月～6月
無毛の落葉小低木。葉に光沢があるのでこの名前がついた。平尾台では、比較的よく見られます。

☆ イベント報告 ☆

大平山草花ハイキング 4月29日 (みどりの日)

シランの谷～見晴台～東の辻 (防火帯)～深窪～鞍はずし～大平山～大平台～上穴下穴～神社の森を、一般参加27名ボランティア15名で歩きました。シランが咲き始め、タカサゴソウ、オカオグルマ、キジムシロなどの草原性の草花やムサシアブミやハナイカダなどの森林性の草花などについて、ボランティアの方から、分かり易い解説があり、参加者の皆さんものんびりと自然を満喫していました。また参加したいとの声も多かったですが、もっと詳しい話もして欲しいといわれる積極的な方もいました。



ボランティア入門 (第2回) 5月8日 (日)



今回は「いのちのたび博物館」真鍋徹学芸員を特別講師としてお招きし、「平尾台の自然環境 植物編」の講義と草花の案内をしていただきました。助佐穴 (シランの谷)～見晴台～不動山～堂金山～茶ヶ床～神社の森を歩き、平尾台の多様な環境が植物の宝庫となっている事や草原の維持に野焼きの果たす役割など、興味深い話を織り交ぜながら、シランやカノコソウなどの草原性の草花や森の中では、オニシバリ、ハナイカダなどの樹木やムサシアブミ、ホウチャクソウなどの草花を観察。専門家の貴重なお話に皆さん、真剣な様子でした。スタッフも大変良い勉強をさせていただきました。

3年続けて5月17日に来たよ。不思議だね?



野鳥豆知識 托卵 (たくらん)

カッコウ科の仲間には、他の鳥の巣に卵を産み、育ててもらうものがいます。仮親の巣に卵を1個産み付け、仮親の卵より早く孵化し、他の卵を巣から落とす巣を独占します。仮親は自分の子供だと勘違いして、餌をせつせと与え育てをおこないます。これを托卵と呼んでいます。北九州には、4種類のカッコウの仲間がやってきます。平尾台の麓の井手浦では、ツツドリの鳴き声を聞くことができますし、ジュウイチは福智山の山頂近くの林でさえずりを聞いた事が有ります。

平尾台のむし 甲虫の仲間

石のひつじ だより

平尾台の野鳥

コゲラ (キツツキ科)

中国東北部、ウスリー、サハリン。日本では全国的に分布。林の枯木等によく止まって、ドラミングをしています。観察センターにも、時折訪ねてきます。北九州では普通に見られるキツツキの仲間です。「ギー、ギー」と鳴きます。

(小啄木鳥:留鳥:全長15cm)



アオゲラ (キツツキ科)

日本特産種。本州～屋久島まで分布。ドラミングはコゲラに比べるとかなり大きな音がします。平尾台でもよく鳴き声を聞くことができます。「ピー、ピー」と大きな声でさえずります。オスの頭部は赤くなるので判別が容易です。生きた木に穴を掘って卵を産みます。

(緑啄木鳥:留鳥:全長29cm)



日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照

平尾台のむし

ダイミョウセセリ (セセリチョウ科)

前翅長:15-21mm。食草:ヤマノイモ・オニドコロ・ナガイモなど。林の周辺などでよく見かけます。羽を開いてとまります。



5月26日



6月5日
オオヨコバイ (オオヨコバイ科)

体長:8-10mm。頭部に2個の黒点がある。草間や樹林内の各種植物に寄生する。半透明の羽が美しい。子孫繁栄の営み中です。



キツツキは木に穴をあけるくらい、くちばしが硬いんだね!

イソヒヨドリ (ツグミ科)

ユーラシア大陸の温帯から亜熱帯で繁殖、日本では北海道東部を除く全国の海岸で繁殖。オスは鮮やかな色彩だがメスは全身褐色で腹部は波模様がある。

何故か、平尾台自然観察センター付近に、つがいで住んでいます。朝、センターの屋上でさえずっているオスの姿を見かけることがあります。



(磯鶇:留鳥:全長23cm)

☆ イベント報告 ☆

平尾台の野鳥観察会 6月5日 (日)

野鳥の会北九州支部の前田さんと磯部さんに講師になっていただきました。まず、双眼鏡の使い方を学び、見晴台～茶ヶ床～神社の森を散策。草原性のホオアカ、ホオジロ、ヒバリ、キジなどをフィールドスコープでまじかに観察。また、カッコウのさえずりや毛づくろいしている姿を全員が観察でき大感激! 16種類の野鳥を確認できました。天気も薄日がさす程度で涼しい風が吹き、観察にはほどよい日和で、参加者の皆さんも、とても満足していました。



ボランティアガイド入門 (第3回)

6月12日 (日)

今回は、青龍窟洞窟探検 (ケイビング) を体感していただきました。青龍窟では先ず旧観光洞を一周して、洞窟探検の雰囲気味わい、希望者のみが九大記念ホールに入洞予定だったのですが、参加者全員が入洞を希望。九大記念ホールまでは主に水流沿いを往復しました。洞内外の温度差が1.0℃以上。



狭い涼しい暗いと三拍子揃った中を、水に濡れ泥にまみれながら匍匐前進し、洞窟探検の醍醐味を堪能。この感動を、多くの人に与えられるボランティア活動に活かされれば幸いです。

パトロールだより



先月、茶ヶ床の先に大量に捨てられていたゴミです。ゴミを出すのは人間だけです!

悲しい不法投棄

平尾台に咲くかわいい花



ウバユリ (姥百合)

花期:(夏)7月～8月
山野の林下にはえる60センチ～100センチ前後の多年草。平尾台では、よく見られる花です。



ヤブミョウガ (藪茗荷)

花期:(夏～秋)7月～9月
暖地の林下にはえる100センチ前後の多年草。花は白色で、径7～10ミリ。1日しばみです。ツユクサ科。

☆ イベント情報 ☆

●千仏川沢登り

矢山から不動洞まで千仏川の沢登りを楽しみます。

開催日:8月7日(日)

(9:30～15:00)

対象:一般20名(小学4年生以上)

申込締切:8月1日(月)

申込方法:往復ハガキ

●ベルセウス座流星群鑑賞会

草原に寝転んで流れ星を観察します。

開催日:8月12日(金)

(19:00～22:30)

対象:50名(高校生以下保護者同伴)

申込締切:8月1日(月)

申込方法:往復ハガキ

●ボランティアガイド入門 (第5回)

平尾台ボランティアガイド入門講座 (夏の植物)

開催日:8月21日(日)

(9:30～15:00)

対象:一般20名(高校生以上)

申込締切:8月9日(火)

申込方法:往復ハガキ

●アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日:8月19日(金)

(10:00～16:00)

対象:10名(一般)

(材料費:2000円程度)

申込締切:8月9日(火)

申込方法:往復ハガキ

●貫山早朝登山

貫山(企救富士)から早朝の周防灘の眺めを楽しみます。

開催日:8月28日(日)

(4:30～11:00)

対象:20名(一般)

申込締切:8月9日(火)

申込方法:往復ハガキ

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※複数で申し込まれる方は全員の住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※イベントの開催日、内容等が変更になる場合があります。ご了承ください。

石のひつじ だより

平尾台の野鳥

ハシブトガラス (カラス科)



分布：ウスリーから東南アジア、日本全国。市街地や林に棲息する。平尾台は殆んどがこのカラス。雑食性でゴミをあさり、人間が出したゴミを平尾台のあちこちに散らかす名人です。お陰でパトロールの仕事が増えます。悪いのは人間ですが！

(嘴太鳥：留鳥：全長56cm) 鳴き声はカー、カー。

カケス (カラス科)



分布：ユーラシア大陸の温帯。日本では北海道から屋久島まで棲息。丘陵地から山林の森林に見られ、平尾台では、塔ヶ峯や神社の森、千仏鍾乳洞周辺で、ジェージェーという鳴き声を聞くことがあります。

(懸巢：留鳥：全長33cm)

日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照

平尾台のむし

オオカマキリ (カマキリ科)



体長：♀75～95mm ♂68～90mm
葉の上で餌を待っているカマキリの幼虫。シルエットがなんともいえず愛らしい！

ナナフシモドキ (ナナフシ科)



体長：♀74～100mm ♂57～62mm
明るい雑木林や林縁にいて、各種の木の葉を食べる。完全に枝に見えます。

ベッコウハゴロモ (ハゴロモ科)



体長：6～8mm クワやチャ等の各種広葉樹上で観察できます。年一回発生、卵で越冬。セミに近い仲間、羽の形がチョウに似ている。

いろいろなカラスが
いるんだね！



ハシボソガラス (カラス科)



(嘴細鳥：留鳥：全長50cm)

分布：ユーラシア大陸の温帯から亜熱帯で広く繁殖し、日本では北海道から九州までの各地に留鳥として数多く繁殖。ハシブトガラスと比較すると、植物質の餌をとる割合がやや高い。平尾台では、あまり見かけません。鳴き声はガー、ガー。

☆ イベント報告 ☆

平尾台の虫しらべ 7月24日 (日)

親子連れ10組26人が参加。先ず「昆虫って何だろう？」ってみんなで学習し、「何故そこにいるの?」「何をしているの?」という視点を持ってフィールドへ出発。神社の森の中や周囲を歩いた。若いクヌギ林の樹液では各種クワガタやカナブンを観察、大型のノコギリクワガタが多数見つかり、子供も大人も少々興奮気味。また、前日に仕掛けたトラップ (草原とクヌギ林の2箇所) に来たオサムシやマイマイカブリ等の地上性の昆虫も観察。その他、バッタや蝶、ナナフシなどの昆虫を見ることができて、特に子供は大満足の様子でした。また、春から秋までの四季を通した虫の観察会を開催して欲しいとの声もありました。



ノコギリクワガタ



樹液に集まっている虫を観察



ミスタマソウ (水玉草)

花期は、8月～9月。
山野の湿地や日陰にはえる多年草。高さ20センチ～50センチ。
花は、白色や淡紅色。白毛のある果実に露がつき、水玉が美しい。

イガホウズキ (毬酸漿)

花期は、6月～9月。
山地の林内にはえる多年草。高さ50センチ～70センチ。
ナス科で花色は黄白色、実には軟毛が生える。平尾台には少ない。



平尾台に咲くかわいい花

平尾台写真展

出展者 「石の羊」 写友会

期間 8月1日～8月31日

場所 平尾台自然観察センター 1階展示室

☆ イベント情報 ☆

●千仏川沢登り

矢山から不動洞まで千仏川の沢登りを楽しまします。

開催日：8月7日 (日)

(9:30～15:00)

対象：一般20名 (小学4年生以上)

申込締切：8月1日 (月)

●ベルセウス座流星群鑑賞会

草原に寝転んで流れ星を観察します。

開催日：8月12日 (金)

(19:00～22:30)

対象：50名 (高校生以下保護者同伴)

申込締切：8月1日 (月)

●アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日：8月19日 (金)

(10:00～16:00)

対象：10名 (一般)

(材料費：2000円程度)

申込締切：8月9日 (火)

●ボランティアガイド入門 (第5回)

平尾台ボランティアガイド入門講座 (夏の植物)

開催日：8月21日 (日)

(9:30～15:00)

対象：一般20名 (高校生以上)

申込締切：8月9日 (火)

●不動の沢登りと不動洞窟探検

冒険心を満たす沢登りとケイビングを体験。

開催日：8月27日 (土)

(9:30～15:00)

対象：一般30名 (小学5年生以上)

申込締切：8月9日 (月)

●名山早朝登山

貫山 (企救富士) から早朝の周防灘の眺めを楽しみます。

開催日：8月28日 (日)

(4:30～11:00)

対象：20名 (一般)

申込締切：8月9日 (火)

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※複数で申し込まれる方は全員の住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。 ※中学生以下保護者同伴

石のひつじ だより

平尾台の野鳥

モズ (モズ科)



分布：ユーラシア大陸東部の中国東北部、サハリンなどで繁殖。日本でも北海道から九州まで分布。昆虫やムカデ、カエルなどの小動物を見つけると舞い下りてくちばしで捕える。捕えた動物を鉄条網や木の刺、小枝にさしておく習性があり、モズの「はやにえ」と呼ばれる。平尾台でもよく見かけ、9月には「キーキーキー」と高鳴きをします。

留鳥：林、農耕地
全長20cm

アマツバメ (アマツバメ科)

分布：東アジアに分布。腰の白色部が良く目立ち尾は深いM字をしている。平尾台では中峠から四方台や貫山への稜線等で、高速で飛んでいる姿を見かけます。夏鳥：山地や海の崖のある所
全長20cm



平尾台の文化祭をみんな
で盛り上げよう！



平尾台カルスト文化祭

開催：9月～11月

場所：自然観察センターや平尾台自然の郷をはじめ平尾台全体が会場

9月 そば祭 (郷)

音楽の広場コンサート (郷)

10月 平尾台山野草写真展 (夢咲村)

ピナクル写真家三人展 (ウツストック)

洞窟チェロコンサート (牡鹿洞トリネ)

平尾台秋色ハイク (センター)

11月 平尾台風景写真展 (センター)

はるかコンサート (ウツストック)

10月11月 洞窟写真展

(牡鹿洞、千仏鍾乳洞、目白洞、センター)

その他、盛りだくさんのイベントがありますので、詳しくは、ポスター・チラシをご覧ください。

日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照

平尾台のむし

イシガケチョウ (タテハチョウ科)



前翅長：26～36mm。年3,4回発生。5月頃から見られる。成虫で越冬。食草は、クワ科のイヌビワ、イチジク。センターに遊びに来た個体。

クワカミキリ (カミキリムシ科)



体長：36～45mm。6月から8月に発生。幼虫はクワ科の生木を食べる。神社の森でイヌビワの木に止まり、木の皮を食べていた成虫。

キリギリス (キリギリス科)



体長：40mm いろんな虫や草を食べる。夏から秋に発生。平尾台の草原には多い。鳴き声は「ギーッチョン」平尾台には、クツムシも多い。

☆ イベント報告 ☆

せんぶつがわ さわのぼ
千仏川の沢登り 8月7日(日)

千仏川を行橋側の矢山から入渓、不動洞入口までの約1.2kmを遡行。途中、滝の高巻き、ウォーターライダーや小さな滝を上ると、森の中の緩やかな沢歩きとなり、千仏橋から不動洞まではトゥファー(鍾乳石)の上をシャワーを浴びながら快適に上った。特に小学生は目の色が輝き、大人も子供も楽しんでた。不動洞から不動坂は、キツイ旧道の登りだったが、全員元気にセンターまで歩いて戻る。(行きの矢山までは平尾台自然塾のマイクロバスで移動)



ざりゅうせいぐんかんしょうかい
ペルセウス座流星群観賞会 8月12日(金)

「平尾台自然の郷」の無料休憩所及び芝生広場で開催。ボランティア講師3人(前田光敏さん、江口齊さん、横田二美雄さん)と石橋宏明さん(自然の郷)より星座、観察方法、惑星についてお話していただき、20時頃より観察開始。天体望遠鏡を3台設置し、月の表面や木星などを観察しながら、流星の出現を待った。20時半過ぎから北の空に流れ星が見えはじめ、最大で13個、平均で5個程度見ることが出来ました。自然の郷のスタッフには多大な協力をいただきました。



ノヒメユリ



ノヒメユリ (黄花)



今年は、ノヒメユリが例年になく多数開花し、夏の平尾台に彩りを添えていました。そんな中に、黄色のノヒメユリが2株可憐に咲いていました。とても珍しく貴重なものですが、心ない方が、根元から一株を千切り捨てていました。こんなことをする人間がいると思うと、とても悲しいです。

☆ イベント情報 ☆

● 石灰石鉱山見学会

石灰石は、私たちの生活にどのように使われているのか?
開催日：9月10日(土)
(10:00～12:00)

対象：一般10名
申込締切：9月6日(火)

● ボランティアガイド入門 (第6回)

平尾台ボランティアガイド入門講座 (ガイドハイキング)
開催日：9月11日(日)
(9:30～15:00)

対象：一般20名(高校生以上)
申込締切：8月22日(月)

● アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。
開催日：9月16日(金)
(10:00～16:00)

対象：10名(一般)
(材料費：2000円程度)
申込締切：9月6日(火)

● 不動坂ハイキング

不動坂を巡るハイキング。
開催日：9月25日(日)
(9:30～15:00)

対象：一般30名
申込締切：9月6日(火)

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※複数で申し込まれる方は全員の住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。 ※中学生以下保護者同伴

パトロールだより

石のひつじ だより

〈開館時間〉9:00～17:00
〈休館日〉月曜日 祝日の場合は翌日

平尾台の野鳥

ジョウビタキ (ヒタキ科)



分布: 中国西部からウスリー、サハリンにかけて繁殖し、日本には冬鳥として全国に渡来、主に積雪の少ない地方で越冬。繁殖地の韓国やシベリアでは「チューイーチョー、チュリイチョー」とか「フィリーチィチィ、チョロリチョー」などとさえずり、冬期は、「ヒッ、ヒッ、ヒッ」と細い声で鳴いたり、「クワッ、クワッ」と鳴く。10月になるとセンターにもやってきます

冬鳥: 林の周辺、市街地の空き地 全長: 15cm

ヤマガラ (シジュウカラ科)



分布: 日本、朝鮮半島、台湾だけに分布。日本全国に広く分布。樹高の高いよく茂った常緑広葉樹林を好む。繁殖期には「ツーツー、ピー、ツツピー」とゆっくりと繰り返してさえずる。平尾台でも、たまに見かけます。

留鳥: 広葉樹林 全長: 14cm

日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照

平尾台のむし

ヒメジャノメ (ジャノメチョウ科)



前翅長: 18～31mm。食草: イネ科 ススキ、チガヤ、ジュズダマ、タケ科。草地や耕作地周辺。ゆっくりと飛びすぐに草に止まる。

ツバメシジミ (シジミチョウ科)



前翅長: 9～19mm。食草: マメ科 コマツナギ、レンゲ、ミヤコグサ等。日当たりの良い草地でハギの花などで吸蜜する。後翅に尾状突起がある。

ミドリヒョウモン (タテハチョウ科)



前翅長: 31～40mm。食草: スミレ科スミレ、タチツボスミレ。雑木林の周辺などで見られる。神社の森でヒョドリバナの蜜を吸っている所。

キノコも、いろんなのがあるんだね!



によきとまきのこ!

生育条件が良いのか? 秋分の頃にキノコ発生ピークのひとつがあるようです。



テングタケ科の仲間



イグチ科の仲間

☆ イベント報告 ☆

ボランティア主催イベント 不動の沢登りと不動洞窟探検 8月27日(土)

ボランティアの皆さんが企画から案内までを初めて行いました。センターより不動坂を下り、千仏橋で昼食後入溪。快適なウォーターシャワーを浴びながら不動洞入り口まで遡行し、



そのまま入洞。洞窟内のツララ石やフロストーン等の二次生成物の説明に、皆さん関心した様子。ボランティアの皆さんお疲れさまでした。参加人数28名(一般15名、ボランティア12名、スタッフ1名)

貫山早朝登山 8月28日(日)

4時30分集合。レクチャー後茶ヶ床まで車で移動。小雨が降りますが、山頂まで落伍者もなく到着。ただ、雲が厚く日の出は残念ながら見られなかったのですが、涼しくて山登りとしては快適でした。頂上で朝食後、参加者との交流会を行いました。

参加人数39名(一般:26名、ボランティア11名、スタッフ2名)



ボランティア研修

たなだ 棚田ウォッチング 9月19日(日)

ヒガンバナが咲く等覚寺(苅田町)の棚田(日本農村景観百選の一つ)や白山多賀神社



(鎮守の森)、東伝寺を訪れ、平尾台周辺の自然と文化を楽しみながら学びました。稲刈りは大半が終わっていましたが、赤米のエンジ色の稲穂がそよふく風に揺れていました。参加人数15名(ボランティア14名、スタッフ1名)

☆ イベント情報 ☆

●アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日: 10月21日(金)
(10:00～16:00)

対象: 10名(一般)
(材料費: 2000円程度)

申込締切: 10月12日(日)

●平尾台秋色ハイキング

光り輝くススキの中を歩こう。

開催日: 10月23日(日)
(9:30～15:00)

対象: 一般30名
申込締切: 10月12日(日)

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※複数で申し込まれる方は全員の住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。 ※中学生以下保護者同伴

●平尾台野の花の会

アートフラワー展

開催日: 10月1日～10月31日
場所: 1F展示室
出展者: 山岸三代子さんと野の花の会

パトロールだより

外来植物

9月1日のパトロール中に見られない花を見つけました。最初は、帰化植物のワルナスビだろうと思い近寄ると、花の中心部が鮮やかな黄色です。ナス科かアカバナ科か迷ったのですが、9

月20日に実がついていました。ナス科のホオズキの仲間でした。場所は市道の法面。名前は調査中。



石のひっじ だより

TEL093-453-3737 FAX093-452-3739
ホームページアドレス <http://www.hiraodai.jp>
〈開館時間〉9:00～17:00
〈休館日〉月曜日 祝日の場合は翌日

平尾台の野鳥

トビ (ワシタカ科)



分布：M字形に切れ込んだ尾を持つ褐色の大きなタカ。ユーラシア大陸の亜寒帯以南、アフリカの一部、オーストラリアなどに広く繁殖。日本では、九州以北に留鳥として分布。トビは、タカ類の中で最もよく鳴き、人々に親しまれている。「ピーヒョロロ」と帆翔中にも鳴く。平尾台でも飛ぶ姿がよく見られます。

留鳥：林の周辺、市街地の空き地 全長：♂59cm ♀69cm

ノスリ (ワシタカ科)



分布：顎ひげ状の黒褐色斑とやさしい黒目を持つ、ずんぐりしたタカ。ユーラシア大陸の温帯から亜寒帯に広く繁殖。日本でも北海道から四国にかけて繁殖。繁殖期には巣の上やその付近で「ピーヨ」とか「ピョー」と鳴く。平尾台では、周防台や天狗岩付近でホバリングしている姿を時々見かけます。

留鳥：広葉樹林 全長：♂52cm ♀57cm

日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照

♪G線上のマリア♪
はいいね!!



平尾台カルスト文化祭

ドリーネコンサート

10月2日(日)に、牡鹿洞のドリーネで風とチェロのコラボレーションが開催されました。午後の部は雨模様になり、観察センターでの公演となりました。綺麗な音



色にみなさん聞き入っていました。

☆ イベント報告 ☆

不動坂ハイキング 9月25日(日)

行橋と平尾台を結ぶ旧道を散策し、歴史と文化を感じながら、秋の平尾台を満喫。爽やかな秋晴れの下、昔の人々の暮らしを思いつつ不動坂を下り、千仏不動や千仏寺跡を訪ね、自然歩道を千仏鍾乳洞へ歩き、台上に登り、堂金山から不動山を経てセンターに戻りました。また、台風14号で荒れていた不動坂を、草刈ボランティアの皆さんに事前に片付け(倒木や竹)ていただき、参加者からボランティアへの感謝の言葉を多く頂きました。参加人数33名(一般:18名、ボランティア:14名、スタッフ:1名)



平尾台カルスト文化祭

アートフラワー展示&実演 10月1日~30日

ボランティアの山岸三代子さんと野の花の会の皆さんの手作り作品展。平尾台で野草を観察し、布切れと針金で花びらやおしべ、めしべなどの小さい部品を一つ一つ作り、それを組立てていく、とても根気のいる作業です。土曜日・日曜日には、ボランティアの山岸三代子さんと野の花の会の皆さんが、アートフラワー作りの実演もされ、見学された方からは好評で、とても珍しそうに見ていました。「本物みたい!!」という声もよく聞かれました。



山岸さんが実演をしている様子



11月からは、「平尾台自然の郷」で展示を行ないます。

平尾台のむし センター訪問虫

ヒメカマキリ (ヒメカマキリ亜科)



10月1日

体長：18～36mm 分布：本州～西表島。樹上性。緑色型と褐色型がある。動きがすばやく、死んだふりをする。事務所の外壁面で撮影。

シロモンノメイガ (メイガ科)



10月6日

前翅長：18～21mm 分布：北海道～沖縄 イチイガシの葉裏に止まっていた。小さいが良く見ると白い斑点が美しい。

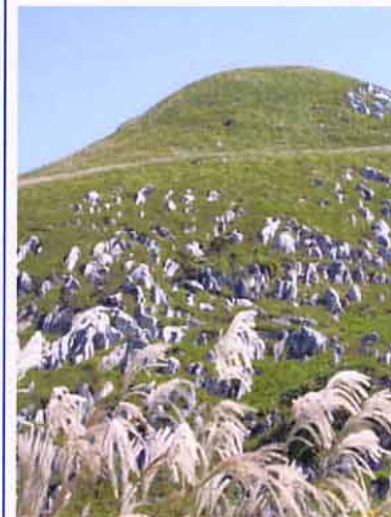
クスサン (ヤママユガ科)



10月8日

前翅長：100～130mm 分布：北海道～九州 食草：コナラ等多種類の木の葉。灯火に集まった個体をよく見かけます。

パトロールだより



青く透き通った秋空に映える石灰岩(ピナクル)の造形や草木との絶妙な調和に思わず見惚れてしまいます。この自然が生み出す芸術に、ただただ感嘆するばかりです。「この美しい自然を大切にしたい。未来の子供たちに残してあげたい。」という気持ちが自然と湧いてきます!



☆ イベント情報 ☆

●アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日：11月18日(金)
(10:00～16:00)

対象：10名(一般)
(材料費：2000円程度)

申込締切：11月10日(木)

●森の生きものしらべ

森の中で生きものたちの生活をのぞいてみよう。

開催日：11月27日(日)
(9:30～15:00)

対象：一般20名
申込締切：11月10日(木)

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※複数で申し込まれる方は全員の住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。中学生以下は保護者同伴。

石のひっじ だより

平尾台の野鳥

アオジ (ホオジロ科)



下面に黄色味のあるホオジロ類。夏鳥として北海道と本州に渡来し、繁殖。北海道と東北地方北部では平地から山地にまで広く分布するが、それ以南では山地に限られる。繁殖期には木の枝先などにとまって「チッチョチチチ リー チョッリリ」とさえずる。平尾台の集落周辺で見られる。地鳴きは、「チッ」と鋭い。

冬鳥：低山の林の下ヤブ 全長：16cm

シロハラ (ツグミ科)



尾の先に白斑のある鳥。ウスリー地方で繁殖し、日本には冬鳥として渡来して積雪の少ない地方で越冬する。地上で餌を採り、落ち葉を除けてミミズや昆虫などを探す。地鳴きは「クワツ」とか「キョッキョツ」。平尾台には10月下旬頃に來ます。

冬鳥：低山や丘陵の下生えのある林 全長：24cm

ヒヨドリ (ヒヨドリ科)



木の実を好む全身灰色の中形の鳥。全国で広く繁殖し、個体数が多い。北方や山地のものは一部の個体数を除いて、冬期は暖地に移動する。周年よく鳴く鳥で、さえずりと地鳴きの区別はあまりはっきりしない。「ピールルル」とか「ピーヨ、ピーヨ」とよく鳴く。センターにも来館し、とてもにぎやかな声で鳴きます。

留鳥：市街地から山林の樹木のある場所 全長：28cm

日本の野鳥 (山と溪谷社)、新山野の野鳥 (日本野鳥の会) 参照



☆ イベント報告 ☆

平尾台秋色ハイキング 10月23日(日)

「全国・自然歩道を歩こう月間」の一貫として、平尾台上の九州自然歩道を歩きました。事前に秋の色を見つけていただくようお願いして出発。幸い秋晴れの好天に恵まれ、ススキや秋の野草(ヒメヒゴタイ、リンドウ、ヤマラッキョウ等)を愛でながら、ばあちゃん岩やキス岩などのピナクル(石灰岩)も観賞。センターに戻って、参加者に秋色の印象を聞いたところ、青や紫系統が多く、青空やリンドウなどの草花の印象が強かったようです。また、ボランティアへの感謝の言葉を多く頂きました。

参加人数42名(一般32名、ボランティア10名)



ボランティア研修

きのこしらべ 11月13日(日)

「森の生きものしらべ」(11月27日予定)の予習として、「きのこ」の生態や特徴などについて研修を行いました。研修室で基本的な知識を身に付け、フィールドでキノコの観察を行いました。午前中は平尾の森、午後にシランの谷を歩きました。木材腐朽菌、落ち葉分解菌、菌根菌など約20種類のキノコを観察。生えている環境や菌糸の様子などを調べました。参加人数ボランティア3名



☆ イベント情報 ☆

●アートフラワー講習会

平尾台に咲く山野草を針金や布を使って作ります。

開催日：12月16日(金)
(10:00～16:00)

対象：10名(一般)
(材料費：2000円程度)

申込締切：12月8日(木)

●塔ヶ峯ハイキング(中級)

平尾台のmatterホルンへハイキングしませんか。

開催日：12月18日(日)
(9:30～15:00)

対象：一般20名
申込締切：12月8日(木)

※往復ハガキにイベント名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。
※複数で申し込まれる方は全員の住所、氏名、年齢、電話番号を明記してください。中学生以下は保護者同伴。

はるがコンサート



平尾台カルスト文化祭

11月6日(日) ウッドストック主催。

雨天の為、センターレクチャールームで開催。両風が強く寒かったが、コンサート会場はそんな寒さも吹き飛ばし、心に響くはるかさんの自然をテーマにした歌声に聞き入っていました。

平尾台のむし

ミノウスバ (斑蛾科)



10月29日

ぜんしちょう
前翅長：31～33mm 分布：北海道～九州 食草はマサキ。腹部端には、橙黄色の長毛があり、翅は半透明。事務所の外壁にいた。

平尾台の紅葉

今年の紅葉は、昨年と比べ随分美しかったですね。紅く染まった葉は、とても綺麗で、見入ってしまう程でした。平尾台では、ネザサやススキに混じって草紅葉も絶妙な色合いを見せてくれます。これから本格的な冬を迎える準備をしている平尾台です。



マサキ (マサキ科)



シランの谷 (助佐穴)

パトロールだより

「平尾台で蕎麦を育てる会」の皆さんが10月15日に収穫した蕎麦を約2週間掛け干し、10月30日に脱穀作業をしていました。昔懐かしい農具も使用し、和やかな秋の一日を汗を流しながら過ごしていました。道行く人もしばしば足を止め、談笑し、地域の皆さんや行楽客との接点になっていました。

